

# オオムギ網斑病に対する新規E B I 剤の防除効果

## 1 情報・成果の内容

### (1) 背景・目的

県内におけるオオムギ栽培では、網斑病が恒常的に発生し大きな問題となっている。このような状況の中、網斑病に高い防除効果が期待できる新規E B I 剤のシルバキュアフロアブル、ワークアップ粉剤DL、同フロアブルが相次いで網斑病に対して適用拡大された。そこで、これらの剤の鳥取県における実用性を明らかにするため、網斑病に対する防除効果を検討し、防除対策に資する。

### (2) 情報・成果の要約

シルバキュアフロアブル（テブコナゾール水和剤）およびワークアップフロアブル（メトコナゾール水和剤）は、オオムギ網斑病に対して高い防除効果が認められる。

## 2 試験成果の概要

(1) オオムギ網斑病に対して、出穂期～穂揃期の10日後頃にシルバキュアフロアブル（2000倍、60～150L/10a）またはワークアップフロアブル（1000倍、60～150L/10a）を1回散布すると、いずれも高い防除効果が得られる（図1、図2）。

(2) ワークアップ粉剤DL（3kg/10a）の本病に対する防除効果は、シルバキュアフロアブルおよびワークアップフロアブルに比較してやや劣るものの、実用上は十分である（図1）。

## 3 利用上の留意点

(1) 本情報の薬剤は、オオムギの重要病害である赤かび病に対しても有効であることから、赤かび病の防除適期（二条大麦で穂揃期の10日後頃、六条大麦で開花期）に薬剤散布することで、網斑病と赤かび病の同時防除が可能である。

(2) なお、オオムギ赤かび病の防除適期までにオオムギ網斑病の多発が予想される場合は、病斑が上位進展する前にチルト乳剤25などを散布する。

(3) 上記の薬剤は、オオムギうどんこ病にも高い防除効果が得られる。

(4) フロアブル剤を散布する場合は、規定量を十分散布する。また、付着性を高めるため、展着剤を加用する。

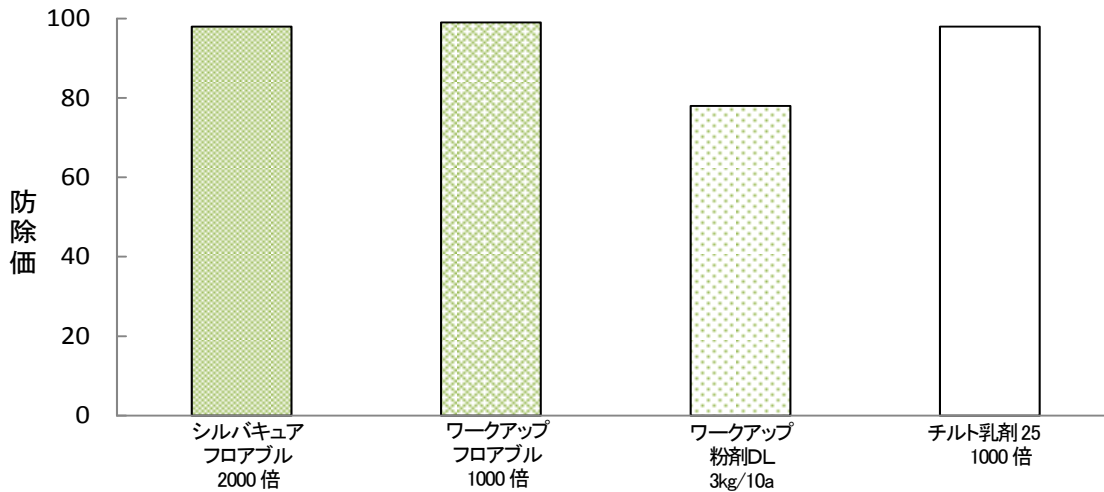


図1 オオムギ網斑病に対する新規EBI剤の防除効果(2008)

(注)試験場所:鳥取市橋本。品種:アサカゴールド(オオムギ網斑病自然感染種子、2006年産)。播種日:2007年11月10日。薬剤散布日:2008年4月12日(出穂期)。発病調査日:5月11日。

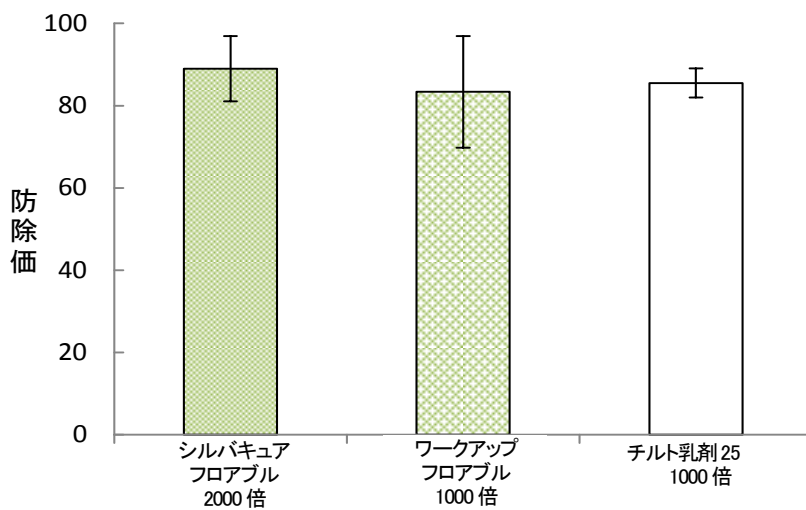


図2 オオムギ網斑病に対する新規EBI剤の防除効果(2008~2011)

(注)数値は2008年、2010年、2011年の平均値。バーは標準偏差を示す。  
 試験場所:鳥取市橋本。品種:アサカゴールド(オオムギ網斑病自然感染種子2006年産)。  
 薬剤散布日:2008年;4月12日(出穂期)、2010年;4月10日(出穂期)、2011年;4月20日(穂  
 揃期の10日後頃)。発病調査日:2008年;5月11日、2010年;5月10日、2011年;5月15日。

#### 4 試験担当者

環境研究室 研究員 稲本勝太  
 主任研究員 長谷川優\*

\*現 農林総合研究所企画総務課 技術普及室 専門技術員